



大久保小だより



平成29年6月1日第3号

さいたま市立大久保小学校

さいたま市桜区五関2-1

048(854)7636

男子153名女子124名計277名

学校教育目標 **力いっぱい** **かしこく** **やさしく** **たくましく**
～ふるさとを愛し、志高く生きる、心優しい大久保の子ども～

～ 6月は、いじめ撲滅強化月間 ～

校長 相川 光彦

学校の周りの田植えも終わり、さわやかな風が心地よい季節となりました。第86回大久保小の運動会では、ご来賓、地域の皆様、たくさんの保護者の皆様方に温かいご声援とご協力をいただき成功裏に終えることができました。特に、ゴミの片づけや駐輪の仕方など保護者の方の観戦のマナーが、とてもよかったことに感激しました。心より感謝申し上げます。これからも、全校児童が学校行事等に「力いっぱい」取り組んでいけるよう努めて参ります。

6月は、子どもたちの緊張感がほぐれ、それぞれ個性が明確になってトラブルが目立ち始める時期でもあります。月別のいじめの認知件数が、6月にもっとも多くなることを受け、さいたま市教委は6月を「いじめ撲滅強化月間」としています。しかし、なかなか発見できないのも、子どもたちのいじめの特徴です。「ふざけているだけです」「ただの遊びです」と言われるとおかしいなと思っても、いじめだと断言できないのが、現状だと思います。大人も子どもも、いじめとの境目を共通理解することが重要です。では、「いじめ」と「あそび(悪ふざけ)」と「けんか」何が違うのでしょうか？家族でも話し合ってみてください。

- 相手が、「やめて」と言っているのに続く悪ふざけ
- いつも同じ子が、ターゲットになっているプロレスごっこ
- 一人対複数のケンカ

人はみんな、いたずら心や意地悪な心をもっています。遊びの中で、つい一人を集中攻撃してしまったり、仲間外れにしまったりしてしまうこともあります。集団やグループが、自分たちの結束を高めるために仮想の敵をつくってしまうこともあります。

そこに働く悪の力は、人が苦しんだり困ったりすることを楽しんでしまう意地悪な心です。そして、その悪の力をいじめと言うのです。いじめと遊びの違いは、悪の力が働いているかどうかです。それは、子どもたちにも分かっていることだと思います。

結局、いじめとは、いじめられる者にも非があるとか、いじめる者が悪であると言っても何も解決せず、「たとえ、いじめられる側に非があつたとしても、いじめていい理由にはけっしてならない」というルールを子どもに理解させることがいちばん有効なのではないかと思う。(作家・漫画家小池一夫氏のツイートより抜粋)

大人も子どもも、いじめは悪い事だという認識をもって、いじめの早期発見解決に向けて取り組んでいきたいと考えています。

「楽」と「楽しむ」漢字は同じですが、意味が違います。子どものよき理解者である大人の役割は、社会のルールやTPO、生活習慣を躰けることです。将来、世界で活躍するためにやるべきことをしっかりできる大久保の子どもを育成したいものです。

これからも、「明日も学校に行きたい」と思える大久保小のために私たち教職員も保護者と力を合わせて、『やればできる』を合言葉に子どもたちのよさを引き出し、「ほめて伸ばす教育」を推進して参ります。よろしくお願ひします。